箕輪町　議会だより

みんなのぎかい

Minowa Town Assembly News

第98号
2026.11.1



令和7年度　決算特集

町の財政 健康診断

…P2～P5

ポニースクール「パカパカ塾」の草競馬
今年の開催は11月7日（土）

特集

ブロックで試す、新しい「議会×住民対話」

つくって、話して、考えが動く。…P6

CONTENTS

●9月定例会で決まったこと …… P8
●あなたの声を議会へ …… P9
●審査のなかみ …… P10
●行政視察 …… P12
●町政のここが聞きたい！一般質問 … P13
●議会活動日誌 …… P22
●町民の声 …… P23
●自治のチカラ …… P24

議会ホームページ

一般質問の様子を動画で！　各議員の二次元コードを読み取ると動画を視聴できます。

決算特集

町の財政 健康診断

9月定例会で、令和7年度の決算を議会が認定・可決しました。

令和7年度決算 財政に課題みえるも、決算は適正

認定

決算は、予算を使った結果を示す町の「成果報告書」。物価高騰や人件費の上昇で、どの自治体も財政運営の厳しさを増しています。議会はお金が正しく効果的に使われたのか、町長3期12年を締めくくる決算を、数字と現場からたどり審査しました。

一般会計決算額

歳入 入ったお金
144.6億円
前年比109.2%（+12.2億円）

歳出 使ったお金
137.8億円
前年比109.2%（+11.6億円）

実質収支*1 残ったお金
5.5億円
前年比177.8%（+2.4億円）

町民ひとりに換算すると?

1年間に町があなたのために使ったお金 **57万円**
歳出137.8億円 ÷ 人口24,171人

ひとりが背負っている町の借金 **47万円**
*2 町債残高114.6億円 ÷ 人口

ことば解説
＊1 実質収支
歳入から歳出を引き、さらに翌年度へ繰り越して使う事業の財源を除いた「実質的な残り」。
＊2 町債（地方債）
未来に残る町の借金。町の財政力に応じた未来への投資。

数字で診る 町のカルテ

経常収支比率
毎年必要なお金に、どれだけ使っている?
90.0%
前年比+1.1pt
人件費や施設管理、借金返済など「毎年ほぼ必ず出るお金」に、収入をどれだけ使っているか。高いほど、新しい事業や急な支出に回せる余裕が少なくなる。

将来負担比率
これから先に払う負担は、どのくらい?
61.4%
前年比+25.0pt
今ある借金など、これから先に払う負担の重さを見る数字。高いほど、将来の財政にかかる負担が大きくなる。

実質公債費比率
今の借金返済は、どのくらい重い?
8.6%
前年9.0%から改善
毎年の収入に対する、借金返済の重さを見る数字。家計でいえば「ローン返済の負担」に近い指標。

財政調整基金
もしもの時に使える、町の貯金
16.5億円
1億円を取り崩し
災害や急な収入減などに備える「町の貯金」。令和7年度は1億円を取り崩し、16.5億円となった。

町債残高
公共施設などのために借りたお金の残高
114.6億円
前年比+11.4億円
道路や公共施設を整備するために借りたお金の残高。令和7年度は体育館改修などで増え、今後何年もかけて返していく。

実質収支比率
町の標準的な収入に対する、実質的に残ったお金の割合
7.4%
前年比+3.1%
一般的には 3～5% 程度が一つの目安とされ、黒字が多ければよいとは限らない。



令和7年度決算に対する
議員の視点
決算の数字、議会はここを聞いた!

毎年必ず必要なお金で、収入の9割を使う状態

Q 人件費や物件費など、毎年必要な経費に町の収入の9割が使われている。新しい事業や投資に回せるお金の余裕がない。「いざというときの貯金（基金）」の取り崩しが常態化してしまう。

A 事業や経費を見直し、上昇を抑えていく。財政調整基金は、当初3億円を取り崩す予定だったが、1億円に抑えた。基金残高は10億円を下回らないよう、取り崩しを抑えた財政運営を行う。

経常収支比率90%。警戒ラインをどう見る

Q 経常収支比率90%は注意・警戒ランク。

A 物価と人件費の高騰、税収の伸び悩み、寄附金の減で厳しさは増している。90%はデッドライン（限界）ではないが、アウトライン（目安）にしたい。

町の貯金、なぜ1億円取り崩したか

Q 人口減少や物価高などで財政需要が増す中、財政調整基金を取り崩した要因と、今後の財政運営への影響があるのでは。

A 交付税、寄附金などが見込みを下回ったり、人件費・物価高騰などで経常経費が増えた場合、基金を取り崩す。当初3億6千万円を取り崩す予算を組んだ。翌年度に繰り越すお金を3億円程度確保するため、取り崩した。最終的な収支は5億5千万円となり、財源不足ではなかった。



ふるさと納税2.5億円減。立て直しは

A 返礼品の原材料高騰、国のルール厳格化、産地混入による出荷停止が重なった。10月から経費基準がさらに厳しくなるため、新たな返礼品の開拓を急ぐ。

不用額の大きさと「見積もり・制度」の課題

Q 補助金の不用額が目立つ（ゼロカーボン4,300万円、中小企業支援金2,060万円など）。見積もりが甘いのでは。



A 太陽光発電等の補助金について、新築住宅は国の補助を選ぶ例が多く見込みより申請がない。賃上げや設備投資に取り組む中小企業の支援金も申請が想定を下回った。
周知の在り方を反省し、制度の見直しを検討する。

水道の有収率69.8%。水はどこへ?

Q 水道水の約3割が収入につながっていない。原因は。



A 本管からの漏水が主因。
600万円かけて調査し大きな漏水を1か所特定、修繕を進める。

ことば解説
有収率とは
配水した水のうち、料金収入につながった水の割合。

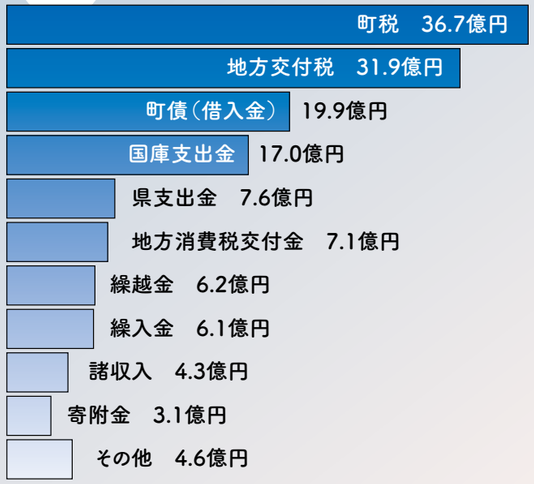
雨水排水整備10年計画は、引き継がれるか

Q 沢南部～大出北部の事業は、町長が変わっても引き継がれるか。

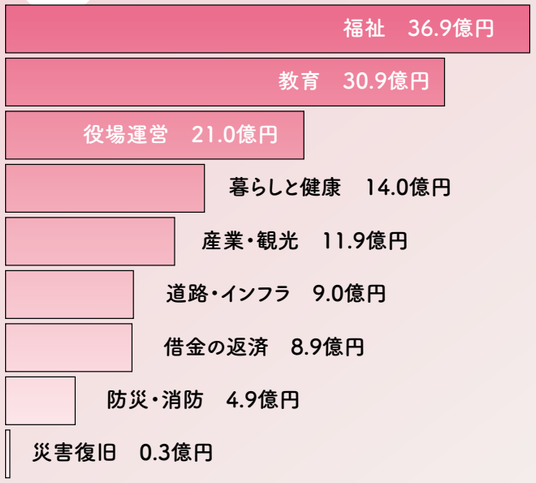
A 道路改良事業と合わせ毎年2,000万円規模で継続中。中期的な進め方は内部で検討する。

町のお金は、どこから来て、何に使われた？

歳入144.6億円／どこから来た？



歳出137.8億円／何に使った？



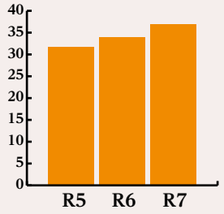
3年間を並べると、「毎年積み上がる支出」と「大型・臨時事業で動く支出」の違いが見えてくる。

福祉

3年間で+5.2億円

31.7億円▶33.9億円▶36.9億円

子育て・保育・高齢者福祉など、継続して必要となる支出が3年連続で増加。
令和5年度と比べると、令和7年度は5.2億円増えた。

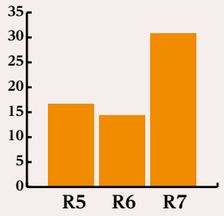


教育

令和7年度に大きく増加

16.7億円▶14.4億円▶30.9億円

令和７年度は、町民体育館・武道館の耐震改修・リニューアルなどが大きく影響。
大型事業がある年度は、教育費全体が大きく動く。

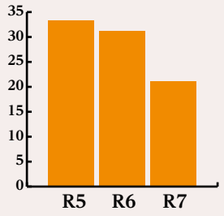


役場運営

大型事業の終了で大きく減少

33.2億円▶31.2億円▶21.0億円

令和５～６年度は、庁舎周辺の太陽光発電やソーラーカーポートなどのゼロカーボン関連事業、防災交流施設などの大型事業を実施。これらが一段落し、令和７年度は総務費が大きく減少した。
※役場の通常経費が 12.2 億円削減されたという意味ではない。



そのお金で町は、どう変わった？


町民体育館アリーナ／フェンシング会場

令和7年度の決算を動かした事業

町民体育館・武道館の改修　16億3,396万円

普通建設事業費は前年比+39%（27.1億円）。
町債19.8億円（うち体育館分14.4億円）と、生涯学習まちづくり基金1.5億円を充てました。
借金残高は114.6億円へ。

▶大型事業はこれで一区切り。
返済のピークは令和11年度。

教育

豪雨災害からの復旧


7・8月豪雨 復旧現場

2,973万円

7月・8月の立て続けの豪雨で農地・林道・町道が被災。
公共土木1,053万円、農地・農業用施設1,423万円など。
災害復旧費は前年比+168%。

防災

物価高騰から暮らしを守る



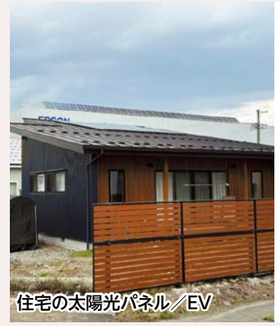
生活応援券

3億1,227万円

国の臨時交付金で、全世帯への生活応援券、福祉石油券、給食費補助、中小企業者支援金2,940万円など12事業。

福祉　役場運営

ゼロカーボン・住宅補助


住宅の太陽光パネル／EV

4,776万円

太陽光44件、蓄電池、断熱リフォーム30件、EV7件など。
補助は令和９年度で終了予定。

暮らしと健康

みのわテラス 道の駅へ


みのわテラス 工事中

1,315万円

「箕輪町道の駅整備基本計画」を策定。
加工所増築などの事業は、令和8年度へ繰り越した。
令和9年4月、道の駅オープンを目指す。

産業観光

若者・移住者の定住支援



若者世帯／移住者

3,400万円

若者世帯定住支援奨励金70件。
看護師・保育士の特定人材就労奨励金4件、地域おこし協力隊4名。

役場運営

中村代表監査委員のコメント



決算審査は各担当者から説明を受け、実施した。歳入・歳出には誤りがなく証拠書類も整備されていることを確認しました。

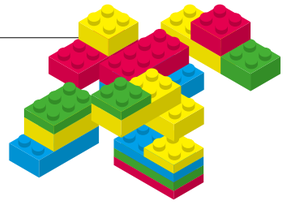
また、資金運用も適切で、抽出した事業について成果を確認し、契約どおり施工されていることを認めました。

特集

ブロックで試す、新しい「議会×住民対話」

つくって、話して、考えが動く。

区長会
箕輪進修高等学校 × 箕輪町議会



議会活動活性化委員会

箕輪町議会では、町民のみなさんの声をより深く、幅広く聞くために、これまでとは違うブロックを使った方法での対話を試しています。

7月は区長会のみなさんと、8月は箕輪進修高校の生徒のみなさんと、ブロックを使った意見交換会を行いました。

言葉だけでは表れにくい思いや考えも、まず手を動かして形にしてみることで見えてくるものがあります。作品を見せ合いながら話すことで、自分の考えを伝えるだけでなく、相手の考えに触れ、自分の考えを見つめ直すきっかけにもなりました。

世代や立場が異なる人たちと対話したことで、地域や町のこれからを考えるための多くの気づきが生まれました。



当日の流れ

❶つくる
問いに対して、まず自分の考えをブロックで形にする。

❷話す
自分の作品を見せながら、「なぜこうしたのか」「何を表したのか」を自分の言葉で話す。作品があることで、言葉だけでは話しにくいことも説明しやすくなる。

❸見る・つなぐ
他の人の作品や話に触れ、違いや共通点を見る。一人で考えていた時には見えなかった視点に気づく。

❹振り返る
対話の前と後で、自分の考えがどうなったかを見つめる。

区長会 「常会のこれから」を、まず形にしてみた。

箕輪町区長会では、「高齢化の中で常会の存続や、常会内の役割をどうしていくべきか」をテーマに、ブロックを使った意見交換会を行いました。



区長会長に聞きました



区長会長
荻原久吉さん
（木下区長）

ブロックで見えた、常会のこれから

Q ブロックを使うと聞いてどう思いましたか?
A 常会や区のこれからを考えることと、ブロックを使うことが本当に結びつくのかなと思いました。でも、自分の思いを形にしてみると、「こういう表し方があるんだ」と分かり、だんだん面白くなりました。

Q やってみて、どんなことに気づきましたか?
A 同じ課題でも、みんなつくるものが違う。何を大切にしているか、どう考えているかもそれぞれ違う。普段の話し合いだけでは見えにくい違いが、作品にするとよく見えました。

Q 常会についてどんな課題が見えましたか?
A 常会が弱くなれば区にも影響し、区が弱くなれば町にも大きな影響がある。常会や区への加入が減る中で、どうつながりを残していくかは共通する課題。

区長の声

- 同じテーマでも、重視するものは人によって違う。
- 言葉で話す前に形にすることで、自分の考えを整理しやすくなる。
- 他の人の作品を見ることで、自分にはなかった見方や共通する思いが見えてくる。
- 結論を急ぐのではなく、まず違いを知ること自体に意味がある。



箕輪進修高校 一人で考えた町から、“私たちの町”へ。



箕輪進修高校では、「今の自分が大切にしているもの・こと・時間」を作品にし、これから暮らしたい・関わっていたい箕輪町を考えました。

生徒会長に聞きました



箕輪進修高等学校
Ⅰ・Ⅱ部生徒会長
小池 天さん

ブロックで広がった、町への視点

ブロックを使って表現する手法がとても新鮮でした。手と頭を同時に使うことで自分の考えをスムーズに伝えることができました。
また、他の人の作品を見たり、想いを聞いたりすることで町に対する視点が広がりました。





高校生の声

- 友達の考えを聞いて、価値観が変わった。
- 自分の言語化しづらい考えを、形にすることで伝わりやすくなるんだなと思った。
- 驚くほど自分と同じ考えの人がいなくて、いろんな視点での考えが見えてきておもしろかった。

高校生アンケート　27人回答

自分の考えを表現できた	自分にはなかった見方に気づいた	みんなで考えたことで、思考や視野が広がった
平均 4.44/5段階評価	平均 4.48/5段階評価	平均 4.56/5段階評価

2つの対話で見えてきたこと

区長会のみなさんと高校生のみなさん。
世代や立場は違っても、ブロックを使って「考えを形にし、見せ合い、話し合う」ことで、新しい気づきやつながりが生まれました。
この対話で得られた視点を、今後のまちづくりや議会の活動に生かしていきます。



ブロックで試す、新しい「議会×住民対話」これからの予定

1月、2月、3月は、どなたでも参加ができます。ぜひご参加・ご協力をお願いします。

参加申込フォーム
参加申込はこちら

10/24	11/11	12月	1/21	2/11	3/20
事業者（終了しました）	各種団体（満員）	多文化のみなさん	どなたでも参加可能	どなたでも参加可能	町民約100名ブロックを使って対話します

9月定例会でこんなことが決まりました

■会期：8月28日(金) ～9月15日(火)　■議案：21件　■7月臨時議会：議案1件

決定

補正予算

学校施設整備基金積立金

町立学校の施設・設備の整備等に関する財源として、条例制定をし積み立てた



1億円

松島保育園園庭改修工事増額

プール設置場所変更に伴う、のり面の整備と、物価高騰によるプール価格の上昇



1,469万円

(総額4,510万円)

みのわテラス道の駅化工事費増額

現地測量で判明した構造上の変更。排水処理方法や屋根・外壁の構造、デッキやスロープを追加



3,957万円

(総額1億433万円)

みのわテラス道の駅化 ビニールハウスの移設等補償金

駐車場拡大のため、いちごビニールハウスなどを移設する



620万円

社会体育館空調設備工事増額

工事中に、点検口が1箇所だと対応できないことが発覚し、12箇所に増加した



720万円

(総額2億1,510万円)

区要望水路等改修工事

松島区中部小登校坂、沢区中井筋水利組合水路崩落防止



1,850万円

情報通信ネットワーク関連事業



※AI生成イメージ図

情報セキュリティ対策・常時監視システムの更新

1,933万円

天竜公園長寿命化工事増

天竜公園井戸水のサビ発生による追加補修と設計委託料



461万円

(総額8,336万円)

物価高騰対応重点支援

■農業資材購入補助金

諸材料費の20%補助、上限10万円

900万円

■福祉石油券

在宅住民税非課税世帯で、70歳以上の高齢者のみ世帯など、対象者へ1万円の福祉石油券(想定1200世帯)

1,258万円

■社会福祉施設等食材料費支援

食事の提供に影響を受けている高齢者福祉及び障がい福祉サービス事業所並びに医療機関など
例：通所施設25人未満20万円等

740万円

■中小企業者支援金

町内に主たる事務所・店舗等を有し石油由来製品の仕入価格が30%以上上昇など（想定325の法人・個人）

2,380万円

人事案件

教育委員

鳥山暁さんの任期満了に伴い、竹内一真さんを任命

陳情

■消費税率一律5%以下への引き下げと消費税インボイス制度の廃止を求める

平出	荻原	金澤	白鳥	中野	上田	岡田	小口	寺平	北野	中澤	中村	小出嶋	入杉	結果
×	×	×	○	×	×	○	×	×	×	×	×	×	―	不採択

提出者　上伊那民主商工会

賛成討論
- インボイス制度による事務負担や取引への影響が出ている。
- 物価高対策として消費税を一律5%以下に引き下げ、国へ意見書を提出すべき。

反対討論
- 本会議ではなし

■ホルムズ海峡封鎖等の影響による中小業者の緊急事態の打開を求める

平出	荻原	金澤	白鳥	中野	上田	岡田	小口	寺平	北野	中澤	中村	小出嶋	入杉	結果
×	×	×	○	×	×	○	×	×	×	×	×	×	―	不採択

提出者　上伊那民主商工会

賛成討論
- 資材・原料価格の上昇など、中小事業者への影響が広がっている。
- 地域の事業者と暮らしを守るため、国に支援策を求めるべき。

反対討論
- 本会議ではなし

意見書

■非核三原則の堅持を求める

平出	荻原	金澤	白鳥	中野	上田	岡田	小口	寺平	北野	中澤	中村	小出嶋	入杉	結果
○	×	×	○	○	○	○	○	×	×	○	×	○	―	可決

陳情提出者　原水爆禁止上伊那地区協議会
上伊那地区労働組合会議

賛成討論
- 被爆国として非核三原則を守る意思を示すことが重要。
- 非核平和都市宣言をしている町として、国へ堅持を求めるべき。

反対討論
- 現時点で改めて国へ意見書を出す必要性には疑問がある。
- 具体的な見直しの動きが出た段階で議論すべき。

あなたの声を、議会へ。

「こんなことを議会で取り上げてほしい」も、大切な町民の声です。

「こんな町にしたい」を、議会に届ける方法があります。

町の暮らしの中で感じること、気になること、
「こうしてほしい」という思いを、町議会に届けることができます。
それが「請願」「陳情」です。

01 思いをまとめる

・道路を直してほしい
・子育て環境をもっと良くしてほしい
・国に制度の改善を求めたい　など



02 請願・陳情を提出

請願	陳情
紹介議員が必要	紹介議員は不要

どちらも、町民の皆さんの声を議会に届ける制度です。



03 議会で審査・審議



内容に応じて委員会や本会議で審査します。
採択された陳情・請願について、国や県などに議会が意見書を提出します。

請願・陳情とは？

町民の皆さんが、町政や暮らしについての意見や要望を、議会に直接届ける制度です。

- 請願　紹介議員が必要
- 陳情　紹介議員は不要

意見書を出してほしいときは？

国や県に対して、改善や制度の変更を求めたい場合は、請願・陳情の中で「意見書を提出してほしい」と求めることができます。
議会で審議し、可決されれば、議会から関係機関へ意見書を提出します。なお、提出された案件は公開されます。

「出してみたい」と思ったら　提出方法や様式、提出期限などは、各議員または議会事務局へお問い合わせください。

審査のなかみ

委員会で審査された内容　Q 議員　A 担当課

■企業版ふるさと納税

Q 企業版ふるさと納税が０円だった理由と、企業への働きかけは。

A 令和７年度は申し込みがなかった。国の地方創生サイトでＰＲしているが、町からも企業へ積極的に働きかける必要があると考えている。

■町営住宅

Q 入居状況と募集の実態は。

A 全103戸。沢・上古田は募集を停止し、入居率は約３割。長岡は８割超で、募集するのは浴室がなく、汲み取り式トイレの古い住戸が中心となっている。

■水道管の耐震化

Q 避難所などへ水を送る管路の耐震化はどこまで進んだか。

A 対象約34.1kmのうち約23km、約67％が耐震化済み。配水池から施設まで一連の管路の耐震化が必要。工事費の上昇で当初目指していた令和９年の完了は難しく、完了時期は未確定。

■伐採木の活用

Q 天竜公園の伐採木はどう処理した？

A 電線にかかる10m超の木などを伐採。桜などは残し、伐採木は業者が持ち帰って処分した。木材販売や委託費との相殺は行っていない。

Q 伐採木を「処分」せず、地域で活用、「欲しい人」への提供はできないか？

A 計画的な伐採なら活用方法を検討できる。課題は、伐採木を一時保管する「土場」がないこと。木材を保管できるヤードの確保が必要である。

■みのわテラス2期開発基本設計業務委託　308万円

Q どこが設計を行い、どう選定したのか。

A 加工施設の基本設計は2社から見積もりを取り、株式会社ローカルライフに決定。屋内遊戯施設の基本設計は、これまでのリニューアルにも関わり、施設を熟知していることから、長野県農協開発機構と随意契約した。



みのわテラス

Q なぜ随意契約とした？

A 過去のリニューアルから施設のイメージづくりなどに関わり、現在の状況を把握しているため。町の選定委員会にも諮っている。

ことば解説　**随意契約とは**
競争入札を行わず、町が特定の事業者を選んで契約する方法

■みのわテラス関連工事

ココに注目！

Q 関連工事費を3,957万９千円増額する理由は。

A 資機材の価格上昇に加え、詳細設計で排水方法や屋根・外壁構造の変更、スロープの設置、店舗配置の変更、設備移設などが必要となったため。

議員の視点　**なぜあとから増額に？**

みのわテラスの工事は、排水方法や屋根・外壁構造の変更に加え、店舗スペースの拡大、敷地の傾斜に対応するため、通路用のデッキや車いす・ベビーカー用のスロープを追加など、さまざまな変更が生じている。当初の設計段階で、必要な機能や使い勝手を十分に検討するよう指摘した。総額は1億円を超える。

■くらしの安全安心関連

Q 若者活躍応援事業補助金の対象と内容は。

A 若者活躍応援事業補助金は、団体を作り町を盛り上げる活動を支援している。



若者活躍応援事業補助金を活用した２回目成人式

ココに注目！

若者活躍応援事業補助金とは
15歳から39歳以下の若者参画による、まちづくりや交流の場を広げる活動を推進する団体のための補助金。
上限20万円。

■福祉関連

Q 電子連絡帳は、医療機関とも連携できるようになっているか。また、その効果は。

A 医療機関とも連携ができる。効果は、いろいろな通知のやり取りもスムーズになり、ケアマネージャー等の仕事が効率化された。



電子連絡帳作業の様子

ことば解説　**電子連絡帳とは**
ネットを使って、福祉利用者と介護職員などの関係者をつなぎ、メッセージなどをリアルタイムに共有するデジタルツール。

■学校施設整備基金条例

Q 基金は長寿命化事業の計画に沿って積み立てていくのか、その計画に沿って取り崩していく計画もあるのか。

A 年度ごと新たな事業の状況を見ながら予算を考慮し、理事者や財政の方と取り組み金額を考える。

■子育て支援事業

Q 子育て支援事業の執行率の7割台がいくつかあるが、その要因は。

A 妊婦等相談支援事業費の要因は、当初出生数180人の見込みが、150人弱だったため。また、子ども子育て支援事業費は、応募がなかったため。そして、子どもの居場所づくり事業補助金は、申請の団体が少なかったことと、交付申請した団体に費用がかからなかったため。

■中学生の放課後学習

Q 中学生の放課後指導は、ボランティアを募ったか。その内容と成果は。

A 有償ボランティアという形で実施。週1回放課後に希望する生徒に対して指導する。内容は英語や数学、パソコンなど。成果は成績がではなく、自発的な生徒の意欲を高めるということが目的である。

■フリースクール補助金

Q フリースクールの利用補助金132万円の基準は？

A 入学金や通学費用、食費を除いた利用料を補助する。
上限1万円。
小学校は12人を想定。
6カ月で72万円。
中学校は10人を想定。
6カ月で60万円。



信州型フリースクール
「Pur（ピュール）みんなの学校」

現地確認　総務産業常任委員会　9月9日(水)

・農業用施設災害復旧工事箇所（福与JA支所近辺）
・中曽根水源受電設備更新工事
・としまの森整備箇所・ながた自然公園アスレチック撤去箇所
・みのわテラス南移設予定ビニールハウス、歩道新設箇所
・町道認定（沢上大石家南）



農業用施設災害復旧工事箇所（福与JA支所近辺）



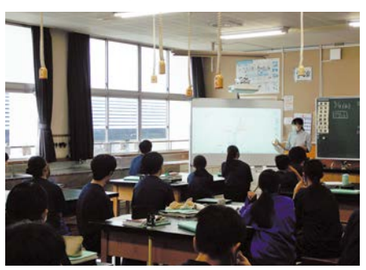
中曽根水源受電設備



としまの森整備箇所

現地確認　福祉文教常任委員会　9月9日(水)

・箕輪中学校（デジタル教科書）
・中部小学校（雨漏り改修）
・みのわ～れ（改修工事）
・松島保育園（プール改修工事）
・若草園（業務支援システム）
・みどりの資源リサイクルステーション（レイアウトの変更等）



デジタル教科書を使用した授業の様子



雨漏り修繕工事箇所の確認



改修工事後のみのわ～れ

行　政　視　察

議会視察研修報告はこちら▶

福祉文教常任委員会

日　時　8月5日(水)～8月7日(金)
委　員　寺平・北野・白鳥・小口・中村
　　小出嶋・入杉議長
視察地　山形県鶴岡市・酒田市・高畠町

今回の視察に共通していたのは、制度や施設だけで課題を解決するのではなく、本人や家族に寄り添い、関係者がつながり、長期的に支援を積み重ねる姿勢である。有機農業、農福連携、子どもの居場所、不登校支援はいずれも短期間で成果が現れにくく、担い手、安定財源、利用の広がり、支援の継続という共通課題を抱えていた。（寺平委員長）

鶴岡市　社会福祉法人　月山福祉会
農福連携・就労相談窓口の取組について学ぶ

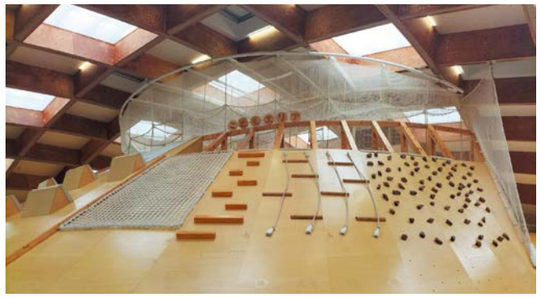
月山福祉会自体が認定農業者として農地を所有・賃貸して農業を行っており、その経験を生かしながらJAや地域の農業者等から農業を受託。特に印象的だったのは、「就労すること」そのものを最終目的とせず、本人が自らの生き方や進路を選択できる「自立」を目標としている点。



月山福祉会理事長との意見交換

鶴岡市　バーンフュージョンSORAI（ソライ）
農福連携と教育産業について学ぶ

SORAIは2018年11月に開館。子どもの遊びと学びを中心とする民間運営の施設である大型遊具や創作活動をするスペース、800冊の本などがある。視察を通じ SORAIは単なる「子どもの遊び場」ではなく、遊びを通じて子どもの主体性、市民性などを育てる「教育の場」として運営されていた。



バランス感覚と危険予測能力をつける傾斜をつけた大型遊具

高畠町
オーガニック給食・オーガニック宣言

1973年から50年にわたって有機農業に取り組んできた。有機農業について町全体のあらゆる面で展開されている。このような取り組みが2023年のオーガニックビレッジ宣言へと繋がった。現在は高齢化により、有機栽培面積は減少傾向、雑草対策の負担も大きい等の課題があり、実際のオーガニック給食は前年は3回、今年は1回にとどまっている。オーガニック給食は、箕輪町ではハードルが高いのか。一部の食材から少しづつ取り組むことが必要。

酒田市
「不登校支援メタバース構築」などの取り組み

不登校支援メタバース空間構築などの取り組みは、不登校児童生徒増加傾向の中、個々の児童生徒の状況にあった支援を行えるよう取り組みが始まった。システム使用料は、7年度約200万円、8年度180万円かかっている。説明会には50人ほどの出席があったものの、登録者は7年度5名、8年度3名にとどまっている。利用者への現状に合った運営体制が必要だ。箕輪町で導入するには予算の確保、人材の確保が課題となる。



参加議員の感想

北野副委員長　農福連携事業はすぐには結果に結びつかないが、諦めずに関わり続けることが大切。
白　鳥　困っている人のため何かをやらないといけない。箕輪町でも展開できることもあり地域の実情を見てできるよう働きかけていきたい。
小　口　事業を実施する際の理念と、事業を実施する人のあり方の大切さを感じた。
中　村　行程がハードであった。思っていたのとは違っていたことが多かった。
小出嶋　人のつながりと引っ張っていく人の力が大切。

町政のここが聞きたい！

一般質問

議員13人が町に質問・提案しました。

質問順に掲載

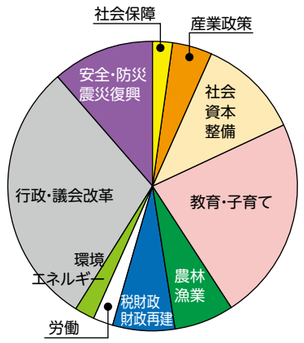
主な質問	議員	ページ
学童クラブの登録児童数と利用スペースの状況は	小出嶋文雄	14
第5次振興計画「問い」まで検証し第6次へ残せないか	上田　学	14
新図書館建設の進捗は	平出　広志	15
こども性暴力防止法の周知を	白鳥　真吾	16
子どもの選択肢を広げる地域クラブ化を	中野　友美	16
町の顧問弁護士選任方法の見直しを	岡田建二朗	17
白鳥町政３期12年組織文化レガシー役場に何残したか	金澤　幸宣	18
地震・豪雨等自然災害の対処及び防災体制は	中村　政義	18
財政調整基金、今後は	寺平　秀行	19
フリースクール等利用時の補助は	小口　智世	20
未加入世帯の子どもの行事参加について	北野めぐみ	20
営農組合のあり方を問う	荻原　省三	21
次期町長に求められる町政への姿勢、人物像	中澤　清明	22

「あなたの関心事はどれ？」

9月議会の一般質問で、議員が取り上げたテーマを、分野ごとに可視化しました。

政策分野の内訳　質問件数(44件)

- 社会保障…… 1
- 産業政策…… 2
- 社会資本整備…… 5
- 教育・子育て …… 10
- 農林漁業…… 3
- 税財政・財政再建 …… 3
- 労働…… 1
- 環境・エネルギー …… 1
- 行政・議会改革 …… 13
- 安全・防災・震災復興 …… 5



知ってる？　みのわまちのいいところ

箕輪町の〝いいところ〟があったら教えてね。
✉gikai@town.minowa.lg.jp

町内一周駅伝

9月20日(日)、全30チームが出場した町内一周駅伝は、今年で67回を数えた。



この大会は、各分館対抗でスポーツ精神の高揚と青少年の健全育成、分館内の親睦を図ることを目的に開催されている。

第1回大会は昭和35年10月30日。木下南宮神社で聖火が点火され、聖火隊が役場前まで走り、松島分館員にリレーされた。木下一三日町一福与と駅伝コースを巡回したあと、午後1時に、14分館196人の選手がたすきをつないで競ったという。

昭和35年といえば、今67歳の私が1歳のときであり、大会の歴史の深さを感じる。これまでには、個人で40回以上出場した選手もいるし、箱根駅伝などの大舞台で区間賞を獲得するような高い実力者も輩出した。

一方で、区によっては選手の選出に苦労するようになってきた。過去には、すべての区間を60歳以上の選手が走ったチームもあった。それでも、地域のつながりを深め、世代を超えて受け継がれてきた。そのたすきに込められた思いは、これからもつないでいきたい、箕輪町の誇りである。

（筆　中村政義）



学童クラブの登録児童数と利用スペースの状況は

小出嶋 文雄（こいでじま ふみお） 議員



教育長 全体で570人が登録
利用者はもう少し少ない

教育長 平日は施設は問題なく利用できているが、夏休みなどは利用者が増え手狭に感じられることもある。学校の空き教室など活用できる。

議員 日常のすごし方と支援する指導員などの状況は。

教育長 通常は宿題をしたり、教室や体育館で遊んだりしている。
指導員の数はギリギリの状況であり確保に苦慮している。長期休業のときは給食調理員やその他の町職員なども応援体制を取っている。

議員 運営していく上での課題として、開設時間、スペースなど環境面、指導員の確保、集団生活のメリット・デメリットについて。

教育長 ①開設時間は特に問題ない。延長は難しい。
②環境面はスペースは今まで増やしている。エアコンも設置してトイレの整備もしており、中部教室はやや狭い状況ではあるがほぼ整備できている。
③指導員の確保　毎日同じ人を確保するのが難しい。代替要員を多く確保すようにしていきたい。多様な児童に対応できるよう研修、相談の機会を増やしたい。
④集団生活のメリットは縦割りの活動ができ友達関係が広くなった。デメリットは変な上下関係が生まれてしまうことがある。

白鳥町長の3期の総括と継続すべき施策は

議員 3期の町政を担ってきての総括と行政の継続性として引き継ぐ施策は。

町長 人口減少が始まり、少子高齢化と公共施設の老朽化の中第5次振興計画で人口減少に歯止めをかけること、人口が減少しての暮らしやすさを維持することを基本に施策を進めてきた。町政全体の行政レベルを一段階上げることを意識し、選ばれる町、持続可能な町、SDGs未来都市を掛け声に進めてきた。健康づくり推進条例、子ども子育て応援条例、安全安心のまちづくり条例を制定し、農業、工業、観光、森林など各分野の計画策定して制作の方向性を明確にした。図書館、博物館、産業会館、旧東部診療所、町民体育館、武道館の耐震リニューアル、みのわテラス、みのわBASEの整備、保育園の統廃合などを実施した。新型コロナの対応に時間を費やし、コミュニティのあり方にも大きな影響を及ぼした。全体的には次の時代に向けた基盤は一定程度できた。
行政の継続性という観点から人口減少問題への対応、地域で暮らし続ける仕組み、こどもまんなか社会の取り組み、農業観光施策、特色ある学校教育、ゼロカーボン施策の推進は必要。

第5次振興計画「問い」まで検証し第6次へ残せないか

上田 学（うえだ まなぶ） 議員



町長 現在の検証作業で
配慮する

10年で「問い」は変わったか

議員 第5次振興計画の検証で、成果や達成度に加え、当初どんな問いから考え始め、その問いでよかったかまで確かめる考えは。

町長 政策が実施できたか、効果があったかは当然検証する。10年間で町民の意識がどう変わり、何を求めているかも分析している。問いの立て方は難しいが、10年分を振り返る必要がある。

議員 計画を進める中で、当初の問いを考え直したものや、これから問い直す必要が見えたものは。

町長 第4次までは人口増加を前提としていたが、第5次では人口減少を前提に転換した。その後、DX、ジェンダー平等、ゼロカーボンなど新たな論点も加わった。人口減少を前提に、交通、公共施設、行政サービスなどを持続可能なものにしていく必要がある。

「問いの履歴」を次へ残す

議員 どの事業を変えたかだけでなく、当初何を明らかにしようとし、実際に何が分かり、今は何を問う必要があるのか。その経緯と理由を後からたどれる形で残せないか。

町長 そこまでは考えていなかった。設問や選択肢、集計方法によって答えは変わる。10年の中で何が変わり、何が原因なのかも分析する必要がある。提案を頭に入れ、現在の検証作業で配慮する。

町民と問い続ける仕組みを

議員 問いの経緯を町民と共有し、今もこの問いを追うべきか、ほかに先に考えることはないかを話し合う材料にできないか。

町長 町民の意向と、行政として必要な施策が一致しない場合もある。若者、子育て世帯、外国人住民など、これまで意見を届ける機会の少なかった人の声をどう取り入れるか工夫が必要。

議員 全てではなく代表的な問いを町民と一緒に追い、毎年「本当にこれでよいか」と見直し、その経緯を記録する仕組みは。

町長 計画を棚に置かず身近なものにし、行動につなげるなら必要。具体的な行動ができる仕組みも含めて考える。



新図書館建設の進捗は

平出 広志（ひらいで ひろし） 議員



町長 任期中に
実現できなかった

議員 新図書館建設は第5次振興計画の重要施策として位置づけられ、町長も建設の必要性と図書館機能の重要性について変わりはない旨の答弁をしている。現在の進捗状況は。

町長 建設は、私の任期中に実現できなかった。本当に申し訳ない。私自身も県内数カ所の図書館を視察してきたが、それ以上進むことが出来なかった。
時代にふさわしい学びや情報の取得方法も含めて、どんな図書館を目指すのか考えていただきたい。

議員 「子ども未来会議」でも、落ち着いて勉強できる広いスペースや学習に役立つ多くの書籍を持つ図書館建設の要望が出されている。次世代図書館は住民の課題解決や第三の居場所、地域活性化の拠点として非常に注目されている。早期実現を望む。



町の目指す姿は

議員 人口減少、少子高齢化等今後厳しい状況が予想されるが、箕輪町が目指すべき姿は。

町長 福祉、教育など様々な分野でこれまでと同じ仕組みを維持して行けるかという問題が出てくる。知恵を絞って若い世代から選ばれる町になっていくべき。

財政状況と課題は

議員 令和7年度一般会計決算で経常収支比率が90％の高い数値となり、注意警戒ランクとなった。財政状況をどう分析しているか。

町長 経常収支比率は人件費の高騰、ふるさと納税寄附金の問題等があり厳しさを増している。また、実質公債比率が体育館改修事業等に伴い非常に上がった。課題であると認識。

議員 今後5年間の財政課題は。

町長 今後人口減少があっても、やるべき仕事は増えている。必要性の薄くなったものを町民に痛みをともなうが、どうするかである。少し施策が膨張しているので、落とさねばならない。次の皆さんで考えてほしい。

健康のまちづくりについて

議員 今後は、「町民の健康」が極めて重要なテーマである。健康寿命の延伸は生活の質向上、医療、介護の負担軽減にもつながる。食、自然、観光、スポーツを組み合わせた健康のまちづくりを進める施策を提案する。

町長 健康は社会の財産である。町の資源を組み合わせ、いろんなアイディアを健康という視点で入れていく必要がある。

こども性暴力防止法の周知を

白鳥 真吾（しろとり しんご） 議員



町長 広報誌やホームページなどで周知に取り組んでいく

議員 12月25日にこども性暴力防止法が施行されるがあまり知られていない。児童生徒・保護者への周知はもちろん、町民の皆さんに広く周知の実施を。

町長 保育園では保護者向けにリーフレットの配布など周知を行う。こどもと接する大人側の理解、対応力が必要になるので、広報誌や町のホームページ、11月には児童虐待防止推進月間になるので、そういった機会を通じて周知･啓発活動に取り組んでいく。

教育長 ポスターは小中学校・各学童クラブで掲示予定。リーフレットについては、上限1,000枚となっており、全小中学生への配布が難しいということがあるので、みのわメイトなどを活用し、電子媒体として保護者へ配布をしていきたい。

議員 保育園・学校は取組の義務事業者となっているが、学童クラブについては国の認定を受けてから取組を行うとされている。大人と接する機会という点では学校と変わりはない。認定を受ける予定は。

教育長 学童クラブは町で設置をしているので、義務のある施設と認識をしていたが、実際には認定を受ける必要があるので、手続きを行っていきたい。

もみじ湖観光事業について

議員 昨今の物価高騰により、もみじ湖観光事業について、経費が収入を大幅に上回ることが想定される。収入をいかに増やしていくのか検討する時期になってきている。駐車場･シャトルバス料金の見直し・改定について考えていかないといけない。見直し・改定の検討がされたのか。また、改定の予定はあるか。

町長 料金改定について検討をしたが、昨年同様の金額で実施をする。昨年度は3,000万円の金額をかけ、来場者による収入は750万円ほどであった。これで収入を増やす必要があるのかどうか議論の余地があると思う。



トイレカーの導入について

議員 以前にトイレトレーラーを含むトイレカーの導入について提案をしたが検討の状況は。

総務課長 令和7年度当初予算の編成にあたって導入を検討した。検討段階で、小さいサイズを2台導入するという想定をしたが、約1,800万円ほどの費用が必要になる。費用面、平時の活用・維持管理面で検討をしたが導入を見送った。

子どもの選択肢を広げる地域クラブ化を

中野 友美（なかの ともみ） 議員



教育長 地域の人材を広く募る

議員 既存の部活動に限らず、子どもがやりたい活動を把握するアンケートを実施し、地域の人材や団体を発掘して多様な活動を増やす考えは。また、保護者の役割や負担を、どう周知していくのか。



さまざまな仮装で楽しむ中学校行事

教育長 アンケートは実施予定。クラブ化のためのポータルサイト「みのOne!」で地域人材を広く募っており、地域の主体的な活動に期待している。クラブ化後は会費の負担など、保護者の協力も重要。各小学校でも説明会を行う。

ホームページ みのONE!

議員 地域クラブ活動支援を株式会社松本山雅へ約1,100万円で委託、別にコーディネーターも配置している。しっかり展開を。

日常から備えるフェーズフリー防災

議員 災害時の支援を受け入れる「受援体制」について、平時から役割や動線を確認する訓練を。

町長 受援体制は訓練が十分でなく、今後取り組む。

議員 安曇野市を例に、家庭の防災用品購入への補助制度を。そして「誰かと分け合える関係性」も、広い意味での備蓄。区や常会への未加入が増える中、補助制度に地域活動への参加などの条件を設け、家庭の備えを地域のつながりや自治の力につなげては。

町長 フェーズフリーの考え方は理解するが、現時点での補助制度導入には慎重。研究する。





熊本県八代市のボランティア受援の一部
動画では３枚紹介している

町民が主役の未来を～白鳥町長メッセージ～

議員 担い手不足や自治会離れが進む中、行政だけで地域を支えるには限界がある。持続可能なまちをつくるため、町民にメッセージを。

町長 12年間掲げてきた、行政に任せるのではなく「町民が主役、行政は黒子」である。住民同士が支え合う組織で動かないと社会は成り立たないのに、常会などの組織に入らないことを是認するようなことには、私は強く言いたい。時代に合わせて地域の仕組みも見直し、住民と地域組織の双方が考えて地域づくりを。

その他の質問
●伐採木材の有効活用について

町の顧問弁護士選任方法の見直しを

岡田 建二朗（おかだ けんじろう） 議員



町長 特段の理由がなければ変えられない契約

議員 当町では27年間、同じ弁護士に顧問を依頼している。特定の事業者と長期にわたって継続契約する事案は稀であり、公平性や公共性の観点からも望ましくない。利益相反を防ぐためにも、個人ではなく弁護士会などと顧問契約することはできないか。

町長 現在の顧問弁護士は行政事件訴訟に長けており、日頃の相談業務の継続性に鑑みても代えがたい存在。

議員 軽井沢町では昨年度から2名体制で顧問契約を結んでいる。地域の弁護士を育成する観点や危機管理という点でも選任方法を見直すべきでは。

町長 顧問契約は双方に特段の理由がなければ継続することになっているため、特別なことがない限りは変えられない。

職員の身分や職務を守る入札制度に

議員 下水道事業の入札情報漏洩について、なぜ役場職員は入札情報を提供したのか。

町長 当該事業者からの働きかけがあったためであり、入札の不調等を避けたかったと聞いている。

議員 当該職員は見返りも要求してなく、過去の判例から見ても不起訴相当と考える。公平性や透明性を担保しつつ、職員を守る入札制度のあり方は。

町長 町長就任後、予定価格の事前公表を見直したが、近年は事業者の人手不足もあり入札も厳しい環境にある。公正・公平な入札制度の確立のために検討を重ねていく。

学校体育館へのエアコン設置は前倒しが可能

議員 教育施設の長寿命化計画が改定されたが、体育館へのエアコン設置が1校当たり1億円前後のため、全校設置まで3年を要する計画となっている。社体や町体のようなパネル式空調でなく、学校体育館に見合った安価な空調に見直せば1年で配備できる。現行計画に拘らず、柔軟な運用を。

教育長 中部小体育館はスポーツ大会の開催も想定されるため、パネル式を想定している。他の学校体育館については大風量のスポット式空調等への置き換えにより、前倒しも含めてなるべく早い全校配備を目指したい。



その他の質問
●ゼロカーボン施策について

白鳥町政3期12年 組織文化レガシー 役場に何残したか

金澤 幸宣（かなざわ ゆきのぶ） 議員



町長 政策形成能力が格段に上がったと感じる

議員 3期12年の町政運営で箕輪町役場に何を残したか。職員の能力、仕事への姿勢、組織としての力をどう評価しているか。今回の入札不祥事案は極めて残念だが、職員全体の評価と12年間の評価まで否定されるものではない。現在の箕輪町役場を「町政を担うに足りうる組織」として次期に引き渡せると考えているか。

町長 大変難しい質問で困惑している。良い仕事が出来るかどうかは、役場組織そのもの『職員』に掛かっている。行政サービスの質的レベルを上げる、総合力を上げることが重要と言ってきた。やはり、総合戦略が上がらないといけない。平成26年就任当時「持てる力を十分発揮していない」「行政課題への対応力の物足りなさ」を率直に感じた。この間、トップダウンからミドルアップ型に切り替えた。計画策定・住民参加の事業に職員の積極的参画を唱え、プロジェクトチーム(PT)を作りその中で政策づくりを行うことで組織としての「力」を高めてきた。PT型がDXとゼロカーボンが始まって出来なくなり職員自らが検討せざるを得なくなった。もう少し広い意味での政策づくりを勉強して欲しかったが『政策形成能力』という意味では格段に上がった。もう一つは、町民の皆さんに丁寧に対応すること。それは行政・町に対して信頼感がないと出来ない。行政の信頼感を作るには運営のプロセスを公開しなければならない。例え未成熟でも町民に届くよう情報提供を行うことを常々言ってきた。新しい行政・施策含め実施出来る内容になっている。

議員 首長が代われば政策の優先順位は変わり、廃止もある。首長が代わっても変えてはいけない定着させた政策・行政の考え方、“白鳥政徳オリジナル施策”としてではなく『箕輪町の政策』として継続すべきものは何と考えているか。

町長 一つは「産業の舵取り」これは町の基盤。行政の支援なくして民間だけでは十分に出来ない。もう一つは「まちづくり」この観点は、持続可能性以外にない。これだけは、継続してやってもらいたい。

町長から箕輪町議会に一言を

議員 今後の箕輪町議会に期待すること、改善すべきこと。執行側から見た箕輪町議会に足りないもの、変えた方がいいものを最後ゆえ率直に。

町長 以前に比べ地域問題を論議する場が少なくなった。これはもう町民が決めること。もう一つは、議会で一定の合意形成をして行く作業が足りない。チェック機能が強過ぎて提案のない反対が多過ぎる。議会の二元代表制を（履き違え）理解されていない部分があるのではないかという感じを非常に持っている。

議員 今の言葉は、我々議員が真摯に受け止めなければいけない。

●地域行事、組織等の実態について

地震・豪雨等自然災害の対処及び防災体制は

中村 政義（なかむら まさよし） 議員



町長 避難所の質の問題など大きな課題はある

議員 今やいつどこでどのような自然災害が起きても不思議ではない状況となっている。地震・豪雨等自然災害の対処及び防災体制は。

町長 最近の災害による影響を受け、防災対策は今まで以上にしっかりしていかなければいけない。
避難所の質の問題など大きな課題はある。課題を踏まえ、住宅の耐震化の問題、避難所への避難の方法とか避難所の質の問題、また下水道の耐震化の促進、女性や障がい者、外国人への対応などを改善していく必要がある。地域防災計画の見直し、また各区で地区防災計画を策定し、避難所の備蓄品の整備や運営方法の再検討の実施、災害弱者への支援策、また避難所の運営に当たるリーダーの研修、外国人への対応を想定した研修などを行った。

議員 大規模災害の際の職員が被災した場合の行政機能維持をどう考えるか。

町長 職員自身やその家族が被災し役場に来られない、そういったことは十分考えられる。こういったことを踏まえて、災害対応をシナリオ化しなければいけない。職員が被災した場合であっても、被災の応急対策とか生命・財産を守る、そういった事務を停止できない。そういった意味で、業務継続計画を策定した。

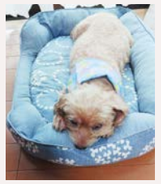
議員 避難所の備蓄量は十分か。

町長 大規模地震災害を想定した当町最大規模の避難所、避難者は4,560人と想定される。現在の充足率の状況は、主食は107%、飲料水は60%、毛布88%、幼児用オムツ562%、携帯トイレ165%、かなりの物は予定より多く備蓄しているが、品目によってはかなり下回っている物もある実情。

議員 女性専用の避難所の設定は。

町長 女性をはじめ、いわゆる災害弱者の対応だが、女性だからといって特に専用避難所の考えはない。

議員 ペットは家族同様と考える人が増加してきている、避難所でのペットの対応は。



町長 ペット避難については、現状は同伴避難はできないと考える。

議員 災害はいつどこで起きるかわからない。先日行われた消防団の消火訓練は、防災無線は鳴らない、搭載車の鐘も鳴らない、とても静かな訓練のようだったが、いかに実戦を想定した消火訓練をするかが必要ではないか。

町長 消防団に対する意識を少し変えて、誰が何を守っているかということを町民に十分周知する。

小中学校の現況は

議員 不登校の実態は。

教育長 コロナ禍以降増加傾向にあったが、令和8年度夏休み以降、減少傾向。

財政調整基金、今後は

寺平 秀行（てらだいら しゅうこう） 議員



町長 最低でも10億円は確保したい

議員 財源不足の時などに備える財政調整基金の今後の見通しは。

町長 財政力を維持するため、人口減少対策や経常経費、公債費などに十分配慮する必要がある。財政調整基金は現在約16億5,000万円であり、災害や世界経済の変化にも備え、最低でも10億円は確保する必要がある。限られた財源の中で事業の優先度を見極め、持続可能な財政運営を進める。

若者に選ばれる町へ

議員 若い世代が箕輪町を選ぶために必要なことは。

町長 若者、特に20代女性の転出には、希望する仕事の不足や固定的な役割分担意識などが影響していると考える。一方、転入には仕事の場、住宅や子育てなどの生活環境、地域の魅力が重要である。町の知名度や魅力を高め、選ばれる地域にしていく必要がある。

地域交通を再検討

議員 今後の地域交通は。

町長 まちなかタクシーだけでなく、みのちゃんバスや自宅から外出できない高齢者への支援も含め、福祉施策として考える必要がある。高齢者の実際の移動のあり方を踏まえ、さまざまな利用者に対応できる制度を検討していく。

豪雨災害に備える

議員 20年前と比べ防災体制はどう改善したか。

町長 町独自の気象観測装置を町内6か所に設置し、雨量や風速などを把握している。危機管理係は災害のおそれがある場合に24時間体制で監視し、河川水位もリアルタイムで確認している。関係機関と連携し、必要と判断すればちゅうちょなく避難指示を出し、各区とも早期の避難所開設に備える体制になっている。



次期計画へ検証

議員 第5次振興計画の成果と今後の課題は。

町長 住民満足度は計画当初の66%から、この5年間平均で約80%となり、一定の成果があった。一方、人口維持は目標に届かず、デジタル化や気候変動への対応にも課題が残る。10年間の町の強みと弱みを分析した調査結果を議会にも示し、次に何を重点とするか議論していく。

フリースクール等利用時の補助は



小口 智世（おぐち ちせ） 議員

教育長 月額1万円を上限とし10月から開始したい

議員 フリースクール等利用時の補助の内容は。

教育長 不登校児童生徒の多様な学びの機会の確保と、保護者の経済的負担の軽減が目的。月額1万円を上限とした実費の予定。対象は信州型フリースクール認証を受けた施設を基本とする。入会金、教材費、交通費は対象外。10月から開始したい。

配慮の必要な児童・生徒への対応は

議員 小・中学校での配慮が必要な児童生徒への対応と課題は。

教育長 多面・多角的に実態を捉え個に応じた対応をしている。心地よさを感じ生活できるよう、学校教育の在り方が問われている。

議員 一昨年の答弁から特別支援学級の在籍割合を出すと、箕輪中が7.11%で、全国割合とかなり開きがある。特別支援教育第一人者の田中裕一先生によると、長野県は通級制度が遅れているとのこと。通常学級に在籍したまま、たまに行って勉強をする通級教室の状況は。

教育長 中部小にサテライト含め2学級。箕輪中に2学級。長野県は特別支援教育に力を入れてきた歴史があり、全国と比べて多いのは確か。転換点に来ている。

議員 国連からも日本の分離教育について勧告が出ている。特別支援学級より、通級の支援を多めにしては。

教育長 私も同感。大人の都合で学ぶ場所が変わるのは大きな問題。ほかの生徒が勉強に集中できないという、全員ではないが先生方の「排除の理論」の意識を変えてもらいたいし、それぞれの力が発揮できるよう授業改革もしていく。

災害時、生活用水の確保は

議員 断水になった場合に備えて生活用水をどこまで確保できているか。どのように確保する計画か。

町長 飲み水だけではなくトイレ、風呂、洗濯等の水も必要だが、生活用水という発想がなかったのが現状なので考える必要がある。災害時の井戸水提供の防災協定を締結していきたい。

萱野高原下の木の伐採は

議員 木が大きくなって、眺めが大分悪くなってしまったという声がある。萱野高原の下の木を伐採する考えは。

町長 萱野高原からの眺望は天下一品なので必要。三日町生産森林組合の土地なので、お願いをするなど考えたい。



その他の質問

- 田んぼオーナー制度の反応と来年度以降の事業展開について
- 外国ルーツ児童・生徒の学びについて

など

未加入世帯の子どもの行事参加について



北野（きたの） めぐみ 議員

町長 子どもが参加しやすい環境づくりをする

議員 区・常会への未加入世帯の子どもが行事に参加できない事例があることを認識しているか。

町長 未加入世帯の子どもが町や区の行事に参加できなかったという具体的なことを聞いたことはないが、多分あると思う。こどもまんなか社会を考えた時、子どもを主体にし、子どもに判断をさせることをしないと、保護者サイドだけの議論で、「会費を払うのはご免だから、役員になるのはご免だから」加入しないことが子どもに影響している問題を、保護者の皆さんに理解してもらうことが必要だ。

議員 子どもが地域で安心して育つため、町としてどのような取り組みを進めるか。

町長 地域の多様な人と関わることが、子どもの成長や地域への愛着につながる。こどもフェスタやこども会議、こどもレターなど、子どもの声を地域づくりに反映する取り組みを進めている。地域活性化交付金や若者活躍応援事業補助金を活用し、地域主体のイベントを支援していく。

学童クラブの運営体制と課題

議員 町として目指す学童クラブの取り組みの方向は

教育長 一番は本当に必要な家庭が学童クラブを安心して利用できること、子どもたちが安心安全に過ごすことができることが目指す方向だ。一つ目の課題は、過密状態の回避だ。例えば利用学年の限定や、留守家庭の厳密な確認をすることが今後必要になってくるのではないか。2番目は、指導内容について、ルールの明確化と子どもの理解。また、指導員の研修。学校との綿密な情報共有を行っていきたい。3番目は、保護者対応で、保護者説明会を通して、学童クラブの意義や現状を理解していただき、一緒に考え協力してもらうことが必要だと考える。



町の公共交通のあり方は

議員 子育て世代や働く世代にとって、公共交通の充実は生活の利便性向上につながると思われる。今後の町の公共交通のあり方は。

町長 みのちゃんバスの場合は、中学生の利用する状況から、切り離すことができないので、これからも続けざるを得ない。まちなかタクシーは、単なる移動手段ということではなくて、健康寿命の延伸という意味でも福祉的な側面をもっと重視すべきだと思っている。

営農組合のあり方を問う



荻原（おぎはら） 省三（しょうぞう） 議員

町長 若手や女性を巻き込み、活性化につなげる

営農組合を若返り

議員 「高齢化が進む営農組合の若返りには、若者や女性を巻き込むイベントなど新たな取組が必要である。町として支援を強化する考えは。

町長 営農組合は地域の農地を守る重要な組織であり、農地を地域で維持する役割も担っている。既存の活動に加え、田んぼオーナーなど具体的な取組を通じて若手や女性を巻き込み、活性化につなげることを検討する考えであり、具体的な取組への支援も考えていく。

体験農業を継続

議員 今年実施した田んぼオーナーの取組は農業への関心を高める機会となった。来年度以降も継続し、農業体験を地域づくりにつなげ、次世代の参加を促す考えは。

町長 田んぼオーナーは営農組合の活性化にもつながる取組である。具体的な行動を通じて若い世代を巻き込み、地域の農地を守る仕組みとして継続的に取り組む考えである。

道の駅を農の拠点

議員 道の駅は直売だけでなく、食や観光商品、体験などを充実させ、地域農業の拠点としていくことが重要であり、来訪者の滞在や地域消費にもつなげる必要がある。今後の方針と整備内容は。

町長 農産物加工場の増築・改修やトイレ増設を進める。ファームテラスは内装やレイアウトを変更し、JA上伊那と連携して産直売上の拡大を図る考えである。

道の駅の体制整備

議員 来春の道の駅開業に向け、施設全体を統括する責任者を置くなど、運営体制を整える必要がある。町の考えは。

町長 指定管理などの方法を含め運営体制は検討段階である。施設全体を見渡す責任者の必要性も認識しており、各施設の自主性を保ちながら体制整備を進める考えであり、来春の開業に向けて検討を続ける。



右折レーンを推進

議員 木下四つ角の右折レーン設置は、通勤時の渋滞解消や児童生徒の安全確保に重要である。今後の進展は。

町長 県としても事業を進めるため予算確保に取り組んでいる。用地面積の測量調査は実施済みであり、今年度から物件調査を進め、道路改良の具体化を図る考えである。県との連携も進め、地域の安全と交通環境の改善につなげる。

次期町長に求められる町政への姿勢、人物像



中澤（なかざわ） 清明（きよあき） 議員

町長 自分の決断で町が変わる、目立つ施策はなくていい、なすべき仕事はしっかりと

議員 町長には見識や指導力、責任感,決断力、公平公正性、倫理観など高潔な人格が求められると思う。町長として貫いてきた姿勢は。また、ご自身の経験から思う町長に望む人物像は。

町長 この地域にいるとまちづくりの一員だと思うことが幾つかあると思う。その中でも町長は自分の決断で地域が変わっていくという実感を得られる、そして、何年後かの子供たちの未来に影響を与えるという大変やりがいのある仕事をしていることを大事にしてきた。もう一つは先進的な施策とかはやらなくていい。オーソドックスでいいからしっかりすべき仕事をしていただきたい。行政として目立つ施策は必要ないと思っている。地域との関わりを大切にし、町長職をやりながらも、常会長や寺総代、ごみ処理当番もやってきた。地域との関わりをなくすのはやっぱりいけないと思う。地域に飛び込むことはぜひ意識をしていただきたい。箕輪にはまだ力があるので、その力はぜひ発揮してもらいたいと思う。

議会、議員に望むことは

議員 3年半前、今の議員構成になってから議会風景が変わった。議員個々の政治活動や議会審議が活性化された反面、行き過ぎたマナー違反やルール違反も見られた。議員活動や議会審議に望むことは。

町長 議会の大きな役割、二元代表制と言っているのはチェックすることではなくて、出されたものを合意形成をして意思決定をするということである。議会の合意、町民の合意をつくり出すというのが議会の役割なので、その点については決して十分ではないと思っている。提案に対して反対するのは全然問題ないと思っているが、反対したら提案してくださいということです。できない場合も、なぜできないということも含めて議論する、そういった議会であってほしいと常に思っていた。それ以上言うと叱られますが、いいか悪いかというチェックに重きを置き過ぎている感じがしていた。マナー違反やルール違反、議会の活性化についての私の認識は、中澤議員とほぼ合致している。



その他の質問

- ●3期町政を振り返っての評価、反省点など
- 公共施設耐震化の取組みについて
- セーフコミュニティの取組みについて
- 組織改革、職員意識や能力の変化について

など

議会活動日誌

活動の一部を紹介します

7月

- 1日 保育園のあり方検討会
- 2日 社会教育委員連絡協議会合同研修会
  博物館協議会
- 3日 竜東線箕輪地区整備促進期成同盟会
  県道与地辰野線整備期成同盟会総会
- 4日 社会を明るくする運動
- 5日 福与区民運動会
- 7日 議会活動活性化委員会
  区長会と議会の意見交換会　P6参照
  みのわ祭り実行委員会
- 10日 交通安全運動入波作戦
  青少年の非行・被害防止街頭啓発
- 11日 上伊那網の目平和大行進

7/13(月)

町村議会議員研修（松本市）

■「地方財政の課題と議会に求められる役割」
武庫川女子大学教授　金崎 健太郎 氏

■「ハラスメントの根絶に向けて」
上智大学教授　三浦 まり 氏

人口減少社会で起こりうる財政課題と議員の役割や、自覚すべきハラスメントを知り、政治参画意欲を削がない議会の在り方を学んだ。

- 15日 岐阜県神戸町議会研修視察来町
- 17日 福祉文教常任委員会学習会
- 20日 ブロックで語ろう（子育て世代）
- 21日 死亡叙勲伝達式
- 23日 桑沢浄水用水施設監査・総会
  みのわ祭り実行委員会

8月

- 3日 国保運営協議会
- 4日 上伊那広域連合議運
  竜東線整備促進期成同盟会総会
- 5~7日 福祉文教常任委員会行政視察
- 9日 長野県知事選挙
- 12日 新みのわ～れ開所式
  森林・林業・林産業活性化促進議員連盟総会
- 15日 二十歳のつどい
- 18日 上伊那広域連合定例会・全協
- 19日 定例協議会
  県農業委員会女性委員登用要請活動
  9月定例会議会運営委員会
- 20日 ブロックで語ろう(箕輪進修高校)P7参照
- 22日 北信越国民スポーツ大会開会式
- 23日 自衛隊協力会マレット大会
- 24日 福祉文教常任委員会定例学習会
- 25~26日 公民館運営審議会委員視察研修
- 26日 保育園のあり方検討会
- 27日 社会福祉協議会第三者委員会
- 29日 社会福祉大会
- 30日 地震総合対策防災訓練
- 31日 総合福祉計画策定委員会

9月

- 6日 第四・六分団模擬火災訓練
  砂防・地域づくりシンポジウム
- 18日 交通安全運動入波作戦
  みのわ祭り実行委員会
- 20日 飯島町発足70周年記念式典
- 25日 県町村議会議長会研修会
- 26日 ブロックで語ろう（高齢者世代）

9/28(月)

町長へ報酬審議会定期開催等申し入れ

- 29日 福祉文教常任委員会定例学習会

町民の声

こんな声が届きました。

「みんなのぎかい」をより良くするため、広報モニターを実施しています。
前号(97号)に寄せられた、ご意見を紹介します。

とても良い　良い　ふつう　あまり良くない





特集　ブロックを並べたら、町が見えてきた

- 今回は参加できなかったが、次回以降は参加したいです。　40代　（好評）
- ワークショップにブロックを使うのは面白い発想だと思います。　80代　（好評）
- 活性化の部分はとても良い取り組みかなと思いますが、もう少しわかりやすくしてほしかった。　40代　（提案）



箕輪町町民体育館、生まれ変わる

- 使っている人と使わない人の間で公平感が保たれるよう、利用料を徴収して維持管理費に充てていただければと思います。　40代　（提案）
- 体育館の経緯等がわかりました。体育館という考えばかりではなく災害時に大いに貢献できると思います。　70代　（提案）
- 見学させてもらったが、女性用トイレの数が少なく感じた。　60代　（指摘）



一般質問

- 議員によっては、かなり調査している方もいて、細部までわかりやすく質問している。　60代　（好評）
- 各議員さん、どれだけ住民の声を吸い上げて、考えて、発言されているか最初に示すとわかりやすいと思います。　40代　（提案）
- 議員ごと目の付け所の違いがわかり、そういった面では興味深く見ております。　70代　（好評）



自治のチカラ

- 区有志の方々の活動には頭が下がります。　70代　（好評）
- 思いを一つにしたときの自治の力は本当にすごいと思います。ぜひいろんな角度で幅広く自治にフォーカスして取材をしていってほしいです。　40代　（提案）
- 地域や有志の方々の活動がわかり深いつながりを感じました。いろいろな活動を取り上げていただけたら嬉しいです。　80代　（好評）

▶議会活動・広報活動に活かします。
取材して欲しい活動があればお寄せください。



モニター募集中
あなたの声で議会だよりは変わります。
議会事務局☎0265-79-3187

仕掛け人は町民 みなさんのパワーが町を変える

自治のチカラ Vol.11

楽山会（らくざんかい） ～森を守る～

ながたマレットゴルフ場から山頂へ続く林道。沢区の区有林であるその先で、山作業をしていた時、西から伊那谷を見渡せる素晴らしい景色に出会った。「こんな場所を、このままにしておくのはもったいない」と沢区で有志の会が発足したのは平成23年のこと。2年後には、延べ60人がひと月以上を掛けて「蕗（ふき）原（はら）の郷眺望櫓（さとちょうぼうやぐら）」を築いた。展望台の床板は、かつて沢区の盆踊りに使われていた櫓板を移設したという。人が集い、地域の時間を刻んだ思い出は、この場所に息づいている。

今も1年に約300メートルずつ林道を整備し延伸する。桜・イワヤマツツジを植えたり、ササユリなどの植物を守る活動もある。

～「守る」より、まず楽しむ～

里山保全は年3回ほど。春は山菜、夏は畑の野菜、秋はきのこと、作業の後は皆で食卓を囲む。蕎麦打ちをするメンバーは7人もいて、それぞれに味があり、「誰が打ったか分かる、他ではもう食べられないほどの美味さ」と口々に言う。

印象に残ったのは、皆さんがとにかく楽しそうなこと。「誰かに後を継いでもらわなければ」という悲壮感はない。森が好きで、仲間と集まるのが楽しい。その延長に、森を守る活動がある。

効率化、簡素化、デジタル化が進む世の中。便利さは大切、でも、100年続くものには、効率だけでは測れない文化がある。そんな会話も穏やかに話す皆さん。

忙しさを理由に失ってはいけないものは何だろう。森に入り、汗をかき、食べ、笑う。そこには、暮らしの中から生まれる自治のチカラが見えた気がした。展望台入口まで車で登ることができる。ぜひ、行ってみては。　（筆 中野 友美）


伊那谷の絶景を望む展望台

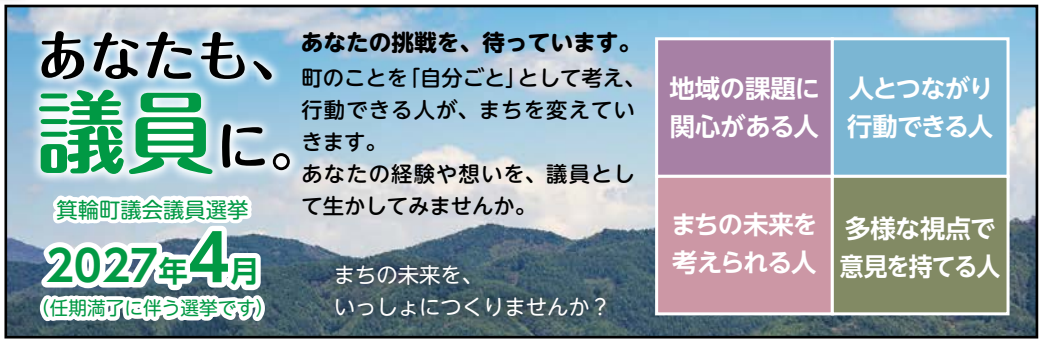

展望台までの歩道には看板も設置


作業当日に打つ蕎麦


作業後は季節の食卓を囲む


紅のヤマアジサイ

新規入会や興味のある方は随時受付
事務局長　下澤090-2623-9619



議員辞職

寺平秀行議員は、一身上の都合により10月5日をもって議員辞職しました。なお補欠選挙については公職選挙法により、任期満了までの期間・欠員数等を踏まえ、実施されません。

12月定例会の予定

12月　7日㈪ ……開会
　　14日㈪ ……一般質問
　　15日㈫ ……一般質問
　　16日㈬～18日㈮…委員会審査
　　21日㈪ ……閉会

編集後記

9月議会は決算審議。福祉費など、減らせない義務的費用が増える中、何を選び、どう執行したのかを特集しました。皆さんの周りの議員に、町の財政状況を聞いてみてください。

この季節、伊那谷は果物天国。秋の味覚にはつい手が伸びて家庭の決算が恐い。さて11月に町長選を迎え、町も変化の時。政治に無関心ではいられても、無関係では暮らせません。候補者の政策をしっかり聞き投票へ行きましょう。（中野友美）

［議会広報特別委員会］
中野 友美（委員長）　上田 学（副委員長）　荻原 省三　北野 めぐみ　中村 政義

議会事務局　電話 0265-79-3187（直）
ご意見・お問い合わせはコチラ▶

箕輪町 議会だより みんなのぎかい［第98号］発行 箕輪町議会 長野県上伊那郡箕輪町大字中箕輪10298番地 ☎0265-79-3187（直） 編集 箕輪町議会広報特別委員会 印刷 株式会社美謄堂